

MRテキスト2018

MR総論

追 補
(2022年7月)

わが国における2020（令和2）年度の医療用医薬品の売上高は11兆4,719億円であり、302社のうち、上位10社の医療用医薬品売上高が69.3%、上位30社のそれが88.8%を占める（厚生労働省「医薬品・医療機器産業実態調査」より）。このように上位集中度が極めて高いものの、日本の各企業の売上高は世界の大手製薬企業と比べると低く、国内最大手である武田薬品工業株式会社でも売上高で10位である（2020年データ、DATA BOOK 2022、日本製薬工業協会）。

研究開発費は高騰し、医薬品の種となる化合物が少なくなっている。したがって、規模の拡大を目指して世界的にM&Aが繰り返されてきた。

112頁 図4-9を差し替える

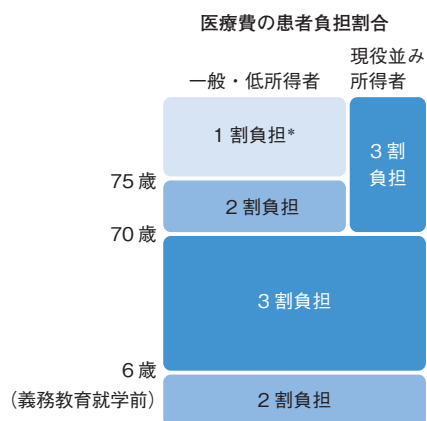


図4-9 医療費の患者負担について

*：2022（令和4）年10月1日から、一定以上の所得のある方（75歳以上の方等）は、現役並み所得者（窓口負担割合3割）を除き、医療費の窓口負担割合が2割になる（厚生労働省：後期高齢者医療制度に関するお知らせ、2022年1月発行）。

（厚生労働省ホームページ）